◇経済倶楽部講演会第４４５８回（６月２日）

地政学的対立における EU規範パワーの可能性と限界

中央大学総合政策学部教授　庄司（しょうじ） 克宏（かつひろ）

＊ブリュッセル効果
＊ＥＵ基準の波及メカニズム
＊規制アプローチは４類型
＊炭素国境調整措置の狙いとは
＊日本はＣＰＴＰＰの活用を
＊対中デ・リスクキング４つの戦略
＊中国に対する様々な地経学的対抗策
＊実はウクライナ戦争・和平派が大半
＊朝鮮モデルの限界
＊ＥＵへの難民は押し返す

山縣　それでは開会いたします。（拍手）

庄司先生についてご紹介いたします。庄司先生は何度もここに来ていただいておりますけれども、実は私も15年ぐらい前に庄司先生にお会いして、古くからのお付き合いです。皆さん、庄司先生のご経歴を見るとおわかりになると思いますけれども、先生の肩書で私が非常に重要だと思っているのは、Jean Monnet Chair ad personam という地位です。これはＥＵのコミッション（欧州委員会）のほうで、ＥＵについての最高の知見がある学者ということを認めた人だけがもらえる称号で、先生は ad personam すなわち個人として、この資格を持っていらっしゃって、日本ではごく少数の人しかおられません。ですから、ＥＵについては日本の中では最高の権威の先生です。

先生、今日はひとつよろしくお願いいたします。（拍手）

庄司　慶應義塾大学名誉教授であり、現職としては中央大学の総合政策学部でＥＵ法・政策を担当しております庄司克宏と申します。Jean Monnet Chair ad personam という称号をＥＵからいただいて、その称号に恥じないように毎日難しいことを、いろいろあれこれ考えて苦悶している状態です。

今日は大雨で足元の悪い中、対面で参加していただいて、どうもありがとうございます。大学の授業もそうだったんですけれども、オンラインだけでやると本当に味気なく、オンラインの向こう側に学生は顔も出さない人が結構いる。